

# PSS 第23期中間決算説明会

---

2008年2月26日

プレジジョン・システム・サイエンス株式会社

# Contents

---

## I. 中間連結決算の概況

### ■ 下方修正要因と背景

## II. 当中間期財務ハイライト

## III. 第23期下期から第24期の事業目標

### ■ 来期(24期)黒字化への施策

### ■ 重点事業領域(1)OEM製品

### ■ 重点事業領域(2)自社ブランド製品

# I. 中間連結決算の概況

(百万円)	前中間期	当中間期	前年比	
売上高	1,694	1,478	-216 (-12.8%)	
売上総利益	701	607	-94	
販管費	829	817	-12	
営業利益	-128	-210	-82	
(製品評価損)	—	-47	-47	
経常利益	-133	-273	-140	
(特別損失)	—	-111	-111	
中間(当期)純利益	-164	-399	-235	
<b>通期 業績予想の修正</b>				
(百万円)	前期実績	期初予想	今回修正	前年比
売上高	3,698	4,000	3,400	-298(-8.1%)
経常利益	-65	70	-270	-205
当期純利益	-143	30	-420	-277

# 下方修正の要因

## (売上高の下方修正)

■ 当中間会計期間から、海外の主要顧客向け輸出製品について、売上の認識基準を船積基準から着荷基準に変更したことに伴い、従来基準ベースより売上高で117百万円、営業利益で約55百万円減収要因となりました。なお、この影響は、来期には、完全に解消される見通しです。

■ 一部OEM向けの主力DNA自動抽出装置販売が、新機種への切替期に入り、既存製品の出荷が予想以上に低迷しました。

■ また、タンパク質精製装置の販売が期待通りに進まなかったほか、新規OEM先への製品出荷開始が下期にずれ込むこととなりました。こうした要因により、プラスチック消耗品等の販売増加はあったものの、中間期の売上高は前年比で12.8%の減少となりました。

## (経常利益の下方修正)

■ 売上の減少に加え、在庫製品の内、長期化しているものについて相応の評価減を行い、営業外損失として、製品評価損47百万円を計上した影響から、経常損失は273百万円に拡大いたしました。

## (当期純利益の下方修正/特別損失の計上)

■ 開発・製造設備などの固定資産の一部につき、その稼動状況を勘案し、特別損失として、減損損失73百万円を計上した他、現時点において販売見通しのない一部の製品については、備忘価格までの評価減を行い、製品評価損25百万円を計上した影響も加わり、中間(当期)純損失は399百万円となりました。

# 下方修正の背景：反省と責任

## （下方修正の背景）

■ PSSの特許技術を利用し、OEM先との契約による大量販売と自社ブランド製品営業を棲み分けて展開していますが、依然として、OEM先への依存度は高く、OEM製品のアップグレードに伴う売上減少に対する見通しが甘かったものと反省しております。

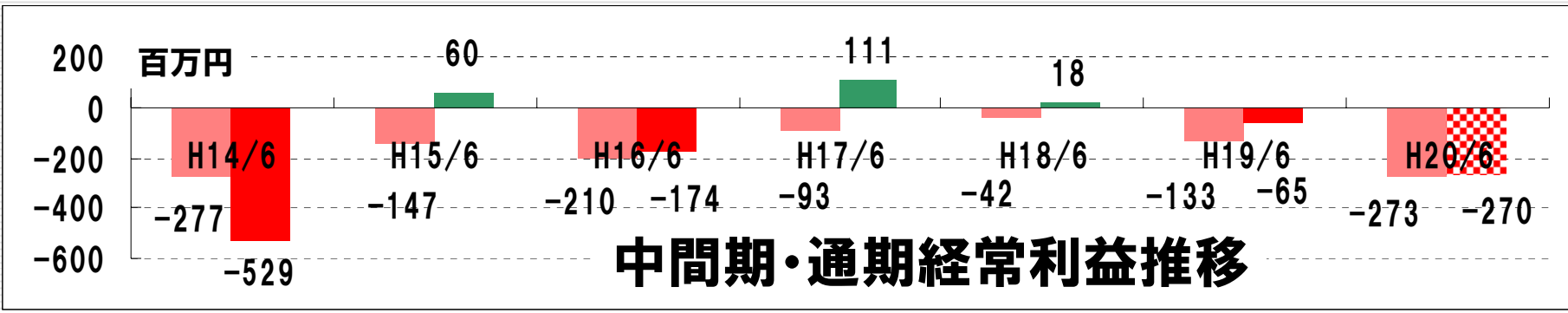
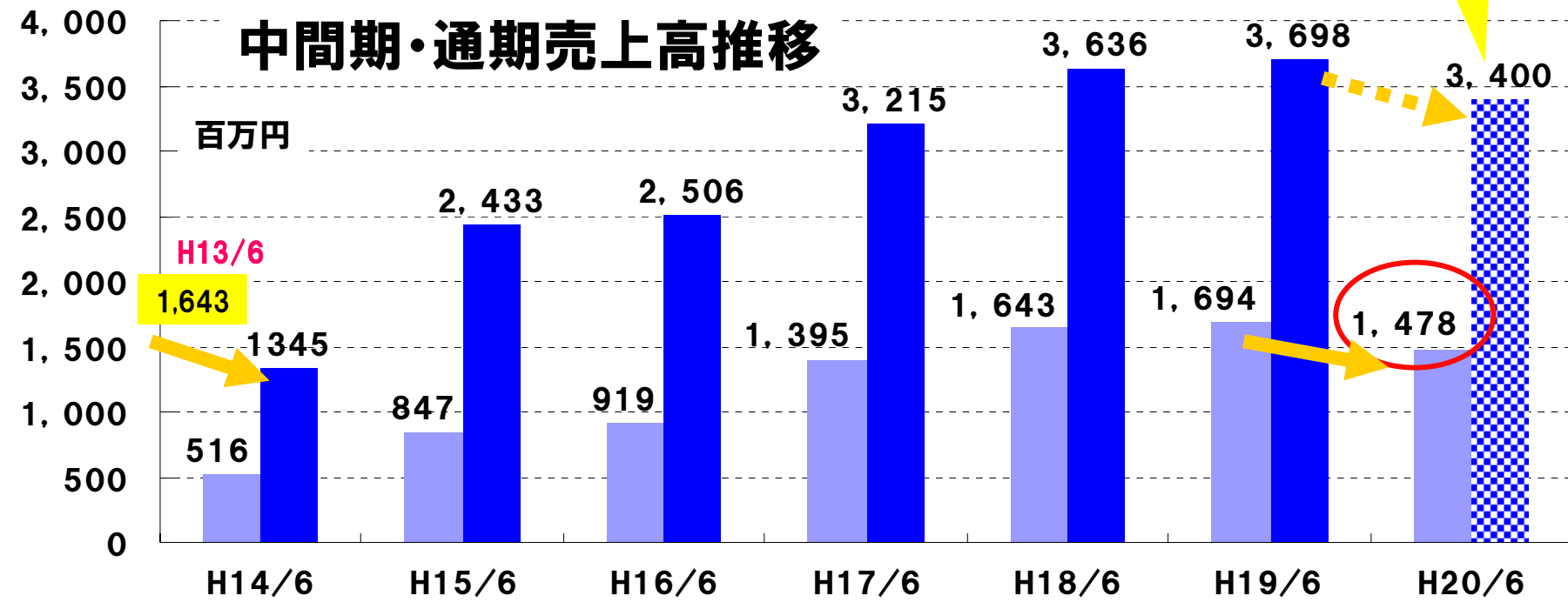
■ 自社販売展開においては、自社開発製品の性能モデルと顧客の要求する製品仕様にギャップがあり、その溝を埋めるための活動に時間を要し、大きな評価損を計上することとなり、損失拡大の要因となりました。

## （反省と責任の明確化）

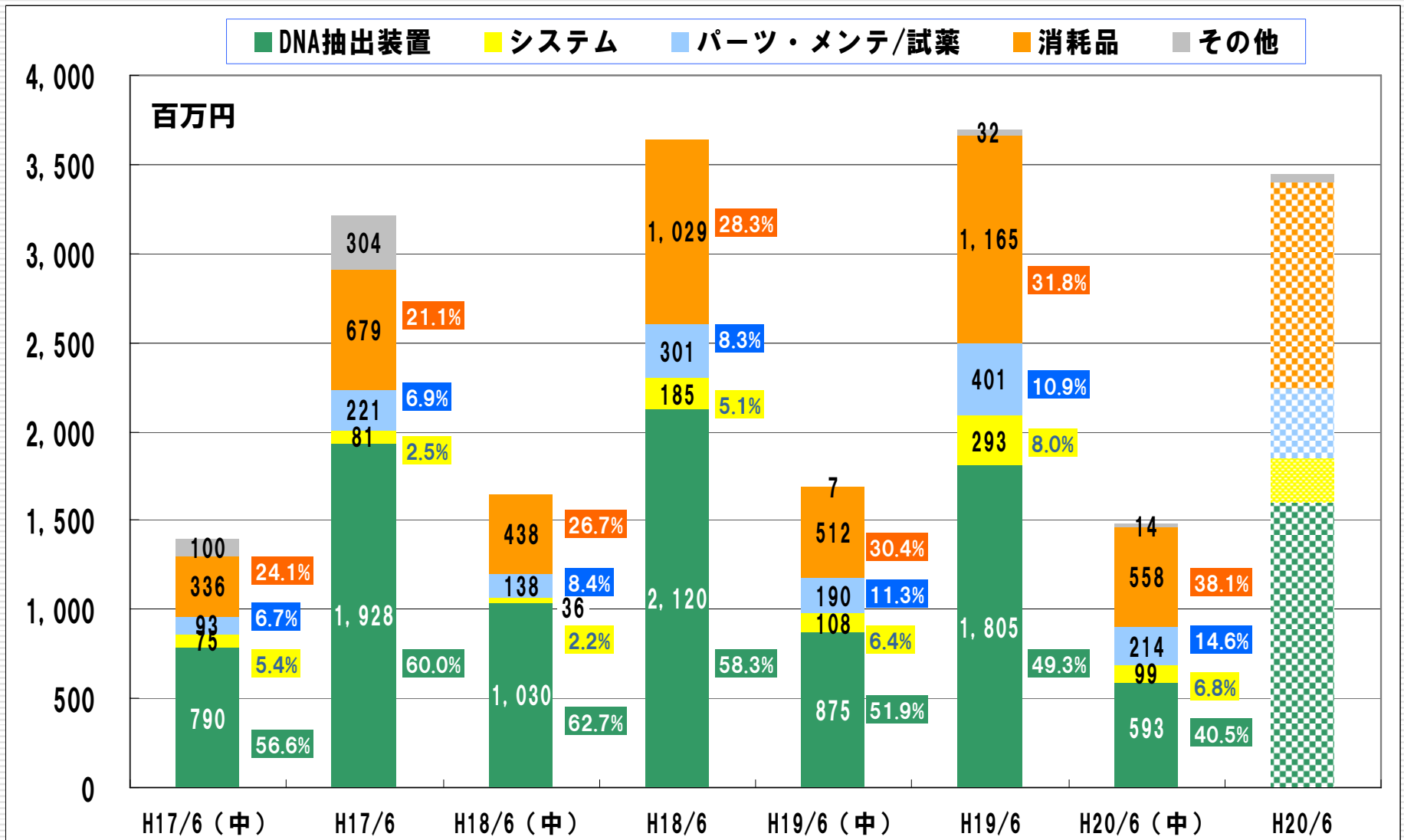
■ こうした問題を正確に把握し、適切な対応策を講じることができなかった社長以下、経営陣の責任を明確にするため、本年2月より、今期末となる6月までの5ヶ月間において、社長以下、役員報酬のカット(50%から10%)を実施することとしました。

# II. 中間期業績ハイライト(1)

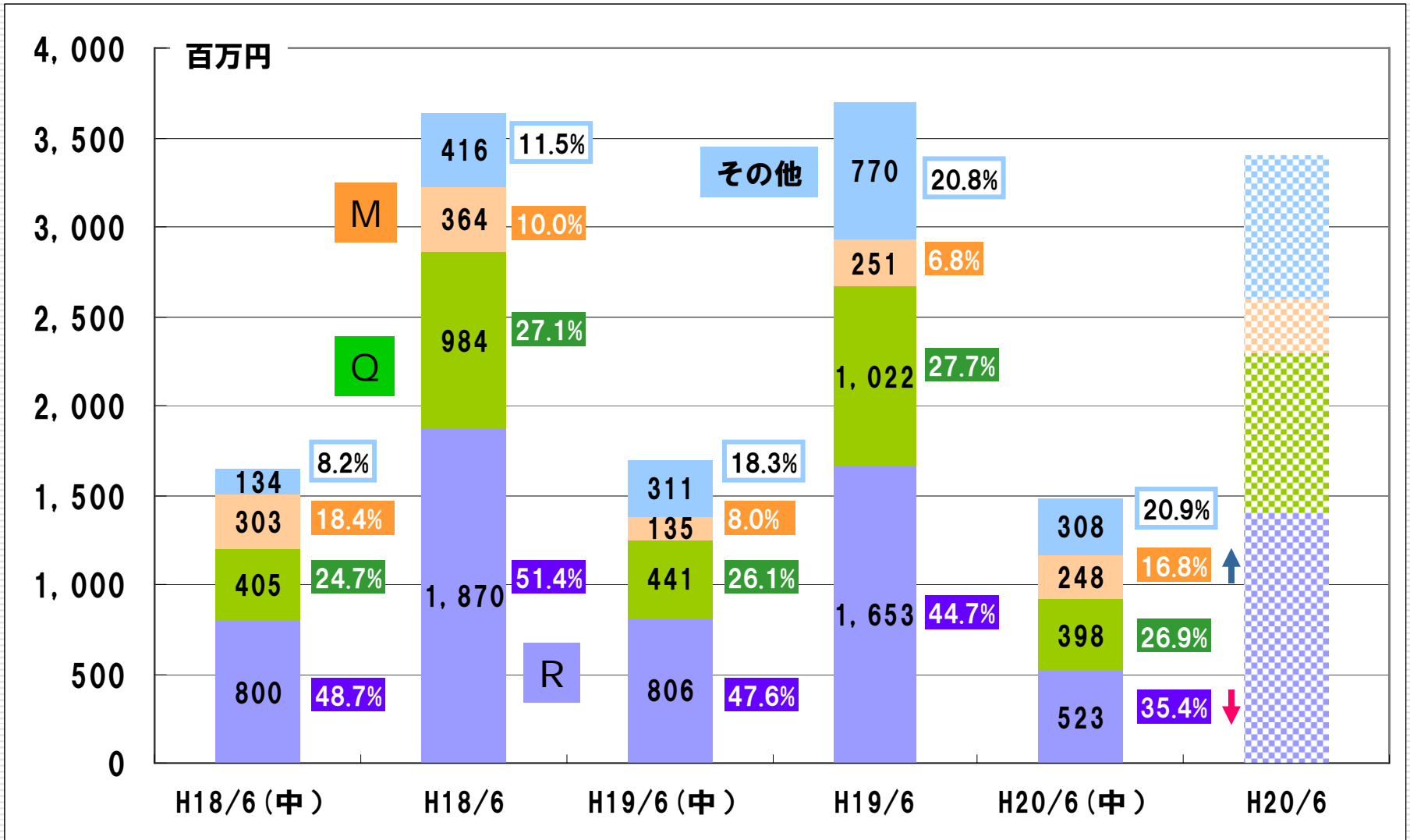
6期ぶりの  
前期割れ



# (2) 製品別売上高推移



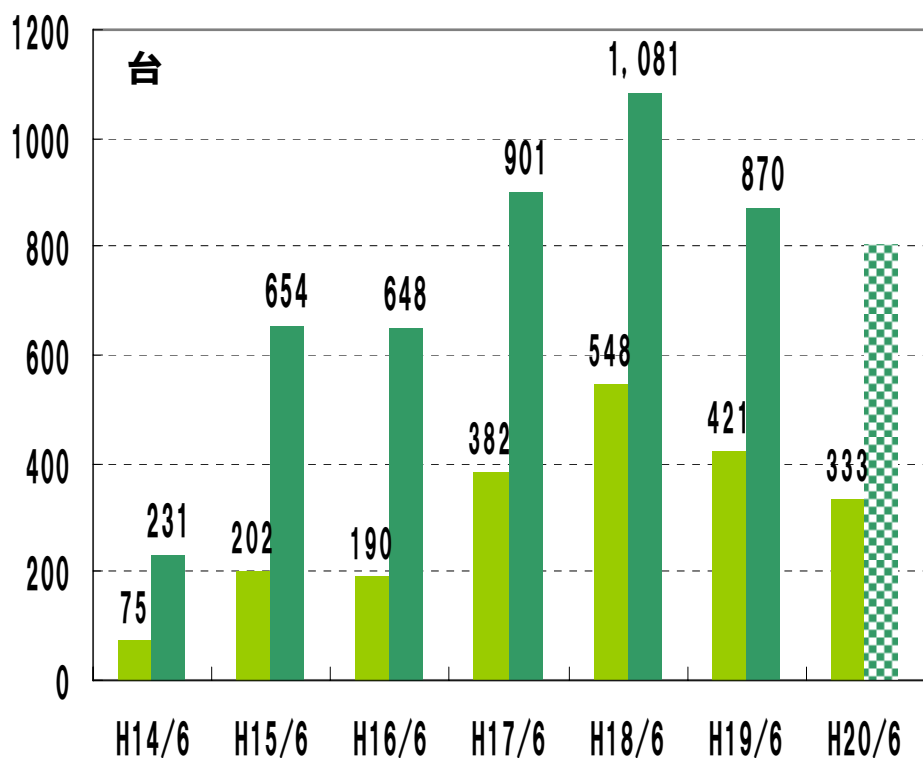
# (3) 取引先別販売状況



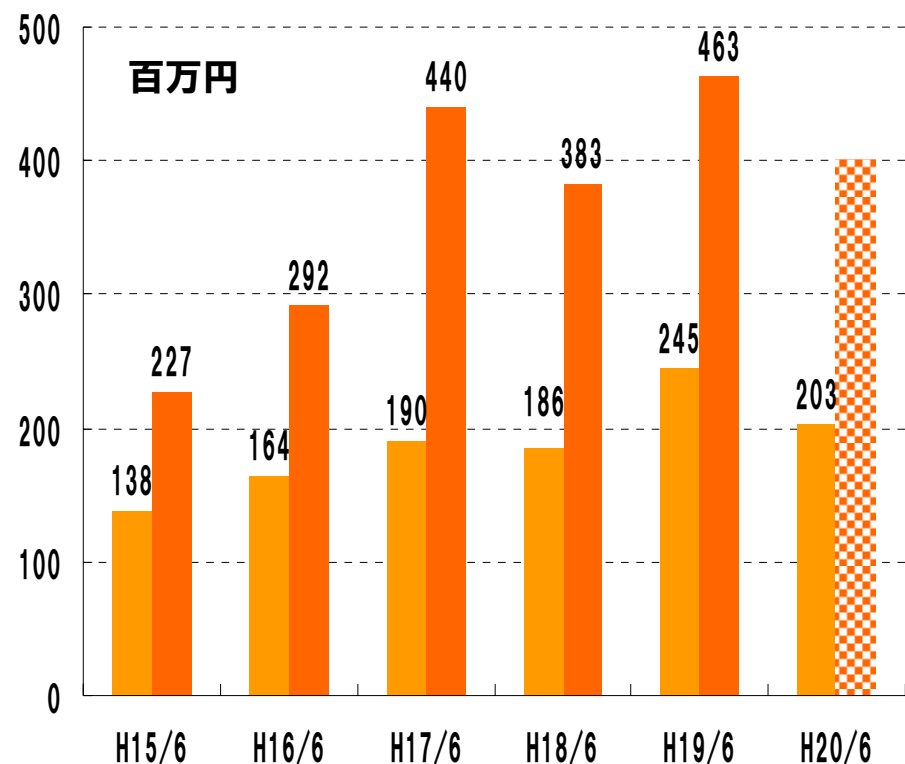


# (4) 抽出装置販売、研究開発費推移

## DNA抽出装置販売台数



## 研究開発費



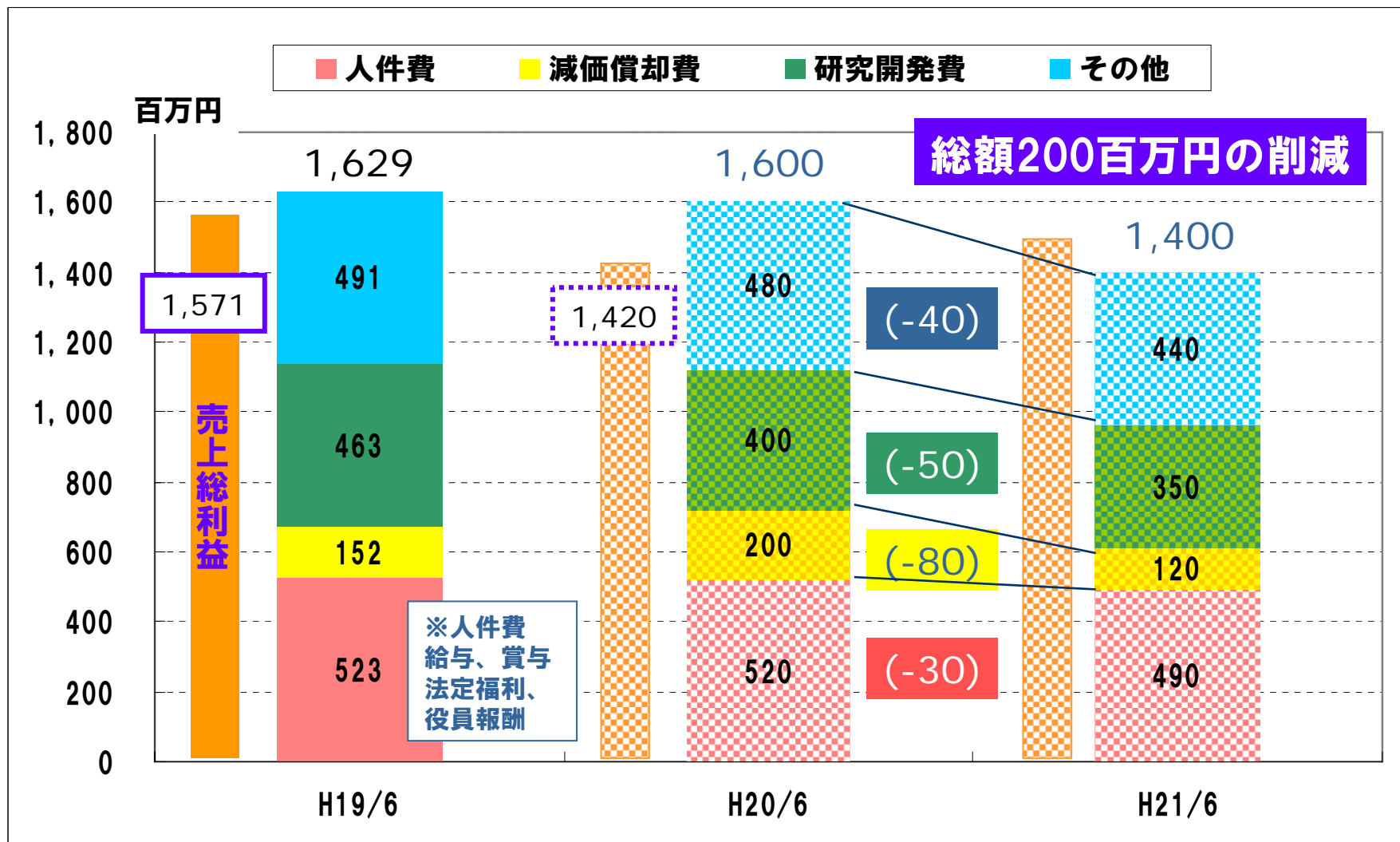
# III. 第23期下期から第24期の事業目標

- 第24期黒字化実現に向けた体制
  - 売上のぶれに係わらず確実に黒字化する事業計画
  - きめ細かな実践的コスト管理プログラムの導入
- 重点事業領域
  - OEM製品アップグレードを契機にOEM先営業強化
  - BA-Xとも連動した自社開発試薬の市場投入
- PSSグループ体制強化
  - 月次ベース予算管理の徹底で変化へ迅速対応
  - 日米欧の完全な情報交換と効率的組織体制の確立

# 来期(第24期)黒字化への施策

- 今期(23期)の売上高の減少は、売上計上認識の変更とアップグレード製品への移行に伴う旧タイプ製品の出荷低迷が主要因となっております。このうち、売上認識のマイナス要因は、来期には完全に解消されること、また新タイプ製品が市場に投入されることで、24期の売上には大きなプラス要因になると考えております。
- 一方、来期の売上拡大を念頭に置きながらも、販売管理費を今期と比べ2億円程度削減し、14億円程度にすることで、売上総利益率を当社の平均値である40%と仮定した場合、売上高が35億円以上であれば確実に黒字化を実現でききる体制を構築することとしました。
  - 昨年末、米国における研究開発拠点であった米国東海岸(メリーランド州)の研究開発拠点を閉鎖しました。現地採用の研究員4名を解雇、研究開発活動は日本本社に集約します。これにより、年間50百万円のコスト削減が見込めます。
  - 来期の減価償却費に関して、設備投資の抑制、今回の減損処理および自然減により、年間80百万円のコスト削減が見込めます。
  - その他、開発費および人件費等の削減により、年間70百万円のコスト削減を実施します。

# 販管費削減計画(第24期)



# 重点事業領域(1)OEM製品

## ■ OEM製品アップグレードを契機にした、OEM先営業の強化

- 今(23期)下期から、来期(24期)初頭にかけて、主要OEM先向け主力DNA抽出装置、2機種のアップグレードタイプが随時投入されます。この機会に、OEM先との関係を再強化し、市場動向の情報交換等を密にし、ニーズの高い製品を適切なタイミングで市場投入することに努めます。
- また、今(23期)下期において、出荷の遅れていたベックマン社向け製品(SPRI-TE) 及び、ナノストリング社向け製品(nCounter Prep Station)の出荷が開始します。

## 重点事業領域(2) 自社ブランド製品

- (BA-Xと感染症検査)6月発売の多用途抽出装置 BA-Xを戦略商品と位置づけ、同製品において使用される抽出試薬及び感染症検査用のバクテリア/ウィルス捕菌試薬ともに集中的に営業活動を行います。
- (BIST)今下期より、多項目を同時に検出できる解析ツール、BISTを利用した肥満向け栄養指導が開始されます。SNP診断では、安価、簡易、迅速の3条件をクリアすることが求められ、BISTの優位性が評価されております。

# 進行中の試薬開発①(核酸抽出/感染症)

ターゲット	システム			開発の現状	実用化目標
	目的	装置	試薬・アプリケーション		
<b>1. 核酸抽出</b>					
既存製品向け	GCシリーズ向け 低価格試薬の開発	12GC、6GC 8Lx	核酸抽出	原材料供給を確保し、開発中。開発完了のものから既存試薬と置き換える。	2008年10月
新規製品向け	新製品BA-X用試薬	BA-X	核酸抽出	BA-Xの6月発売に合わせて、開発の最終段階。	2008年6月
<b>2. 感染症、遺伝子検査</b>					
<b>呼吸器感染症</b> (結核菌)	喀痰前処理自動化 結核菌濃縮	BA-X	既存試薬、新規試薬 キャプチャー・ビーズ	専門機関の協力を得て実証中	2008年9月
(レジオネラ)	レジオネラ菌濃縮	BA-X、(イムノクロマト)	キャプチャー・ビーズ、PCR試薬、協力会社試薬	専門機関の協力を得て実証中	2008年7月
<b>HBV</b>	HBV変異解析	Bio Strand (F-I) 12GC 分注装置	PSS核酸抽出試薬, PCR, Primer, Probe	Bio Strandによる解析可能性を確認 分注装置開発中	2008年12月

# 進行中の試薬開発②（解析・診断分野）

ターゲット	システム			開発の現状	実用化 目標
	目的	装置	試薬		
<b>3. ヒト遺伝子SNP:体質測定</b>					
肥満・糖尿病関連 SNPs	肥満因子関連4SNPsに よる栄養指導	12GC BIST	PSS核酸抽出試薬, Multiplex PCR Primer, Probe	12GC/BISTによる実 用化可能性終了。パ イロット・スタディ でBISTの実用可能性 を立証。	2008年4月
<b>4. ヒト遺伝子DNA修飾:癌の早期診断の可能性追求</b>					
エピジェネティクス (遺伝子発現調節)	遺伝子発現調節(スイッ チング)メカニズムを解 析することにより、癌、 老化への応用につなげ る。 クロマチン修飾 メチル化DNA General IP	既存装置の検 証中	PSS核酸抽出試薬、 協力会社抗体・試薬	免疫沈降法の自動化 の可能性評価準備中	2008年9月



# BA-X: 多用途利用が可能な抽出装置

低価格で新市場を開拓

柔軟に、機能を選択

中、大容量対応

感染防止対策で安全

Protocol

**DNA Extraction**

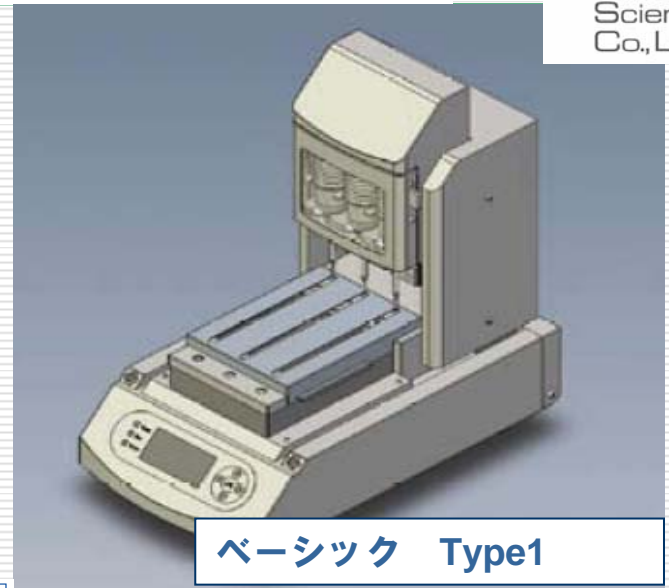
Sample vol.: 200  $\mu$ l, 1000  $\mu$ l, 3000  $\mu$ l

**RNA Extraction**

Sample vol.: 200  $\mu$ l, 1000  $\mu$ l, 3000  $\mu$ l

**Bacteria Trap**

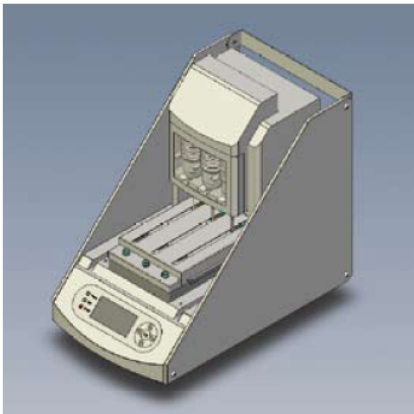
Sample vol.: 15ml, 50ml



Type2

汚染不安がないサンプルを扱う施設に最適です。

◎挟み込み防止カバーを装着

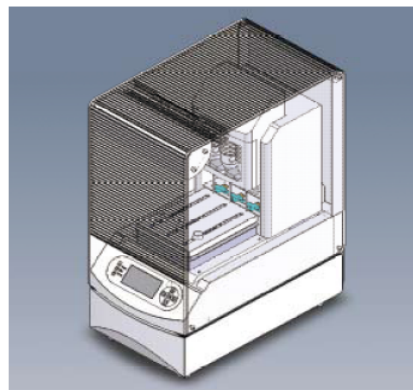


Type4

実験台の上で汚染物質を扱う施設に最適です。

◎滅菌用UVランプ、感染防止用HEPAユニット装着

◎インターロック装着



ベローズチップ搭載

・単純な上下機構による液体の吸引・吐出が可能なため、コスト低減とメンテナンス性の向上を実現

・閉鎖された空間であるため、飛散などによるクロスコンタミネーションの回避を実現



# PSSの全自動遺伝子解析事業構想と製品

試料前処理

抽出・精製

増幅

検出

解析



BA-X

多様なサンプル  
に対応

大量全血、食材  
喀痰、便、尿、...

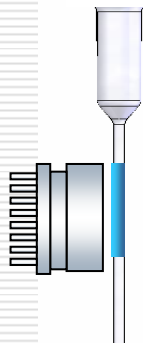
Magtration



Purelumn



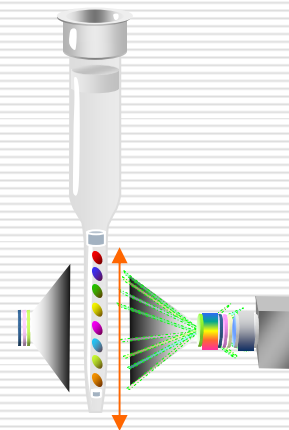
簡易  
サーマルサイクラー  
(integrated)



PCR in  
Capillary Tip

リアルタイム  
PCR検出

BIST



定量、  
多項目同時測定  
挑戦



# (参考:連結BS)

中間連結貸借対照表

(単位:千円)

科目	前連結会計年度末 (平成19年6月30日現在)	当中間連結会計期間末 (平成19年12月31日現在)
<b>(資産の部)</b>		
流動資産	3,980,714	3,430,362
固定資産	1,188,533	1,139,831
有形固定資産	1,069,109	1,016,270
無形固定資産	18,357	17,338
投資その他の資産	101,067	106,221
資産合計	5,169,248	4,570,193
<b>(負債の部)</b>		
流動負債	1,149,502	1,039,974
固定負債	1,165,297	1,092,603
負債合計	2,314,799	2,132,577
<b>(純資産の部)</b>		
株主資本	2,741,887	2,340,757
資本金	2,041,778	2,041,778
資本剰余金	2,508,354	2,508,354
利益剰余金	△1,808,244	△2,209,375
評価・換算差額等	112,516	96,858
その他有価証券評価差額金	16,197	7,724
繰延ヘッジ損益	114	6
為替換算調整勘定	96,204	89,127
新株予約権	44	—
純資産合計	2,854,448	2,437,615
負債・純資産合計	5,169,248	4,570,193

# (参考：連結PL)

## 中間連結損益計算書

(単位：千円)

科目	前中間連結会計期間	当中間連結会計期間
	自 平成18年7月1日 至 平成18年12月31日	自 平成19年7月1日 至 平成19年12月31日
●売上高	1,694,556	1,478,398
売上原価	993,416	871,367
売上総利益	701,140	607,031
販売費及び一般管理費	829,882	817,870
営業損失	128,741	210,838
営業外収益	22,565	10,257
営業外費用	27,052	72,509
経常損失	133,228	273,090
特別利益	—	6,800
特別損失	30	111,444
税金等調整前中間純損失	133,259	377,734
法人税等調整額	31,512	21,387
中間純損失	164,772	399,122

## 連結決算における特別損失 (単位：千円)

固定資産売却損	1,510
固定資産除去損	11,053
製品評価損	25,835
減損損失	73,045
特別損失計	111,444

# (参考：連結CF)

## 中間連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)

科目	前中間連結会計期間	当中間連結会計期間
	自 平成18年7月1日 至 平成18年12月31日	自 平成19年7月1日 至 平成19年12月31日
営業活動によるキャッシュ・フロー	△49,939	8,111
投資活動によるキャッシュ・フロー	113,912	△87,001
財務活動によるキャッシュ・フロー	57,257	△66,056
現金及び現金同等物に係る換算差額	20,564	△1,737
現金及び現金同等物の増加額	141,794	△146,682
現金及び現金同等物の期首残高	1,214,841	1,478,611
現金及び現金同等物の中間期末残高	1,356,635	1,331,928

# (参考:個別BS, PL)

## 中間個別貸借対照表

(単位:千円)

科目	前事業年度末 (平成19年6月30日現在)	当中間会計期間末 (平成19年12月31日現在)
<b>(資産の部)</b>		
流動資産	3,446,281	2,884,537
固定資産	1,394,311	1,292,343
有形固定資産	817,739	708,307
無形固定資産	17,769	14,902
投資その他の資産	558,802	569,133
資産合計	4,840,592	4,176,881
<b>(負債の部)</b>		
流動負債	980,679	963,100
固定負債	1,163,583	1,091,123
負債合計	2,144,262	2,054,224
<b>(純資産の部)</b>		
株主資本	2,679,973	2,114,925
資本金	2,041,778	2,041,778
資本剰余金	2,508,354	2,508,354
利益剰余金	△1,870,158	△2,435,206
評価・換算差額等	16,312	7,730
その他有価証券評価差額金	16,197	7,724
繰延ヘッジ損益	114	6
新株予約権	44	—
純資産合計	2,696,330	2,122,656
負債・純資産合計	4,840,592	4,176,881

## 中間個別損益計算書

(単位:千円)

科目	前中間会計期間 自 平成18年7月1日 至 平成18年12月31日	当中間会計期間 自 平成19年7月1日 至 平成19年12月31日
売上高	1,343,486	1,088,851
売上原価	829,515	668,264
売上総利益	513,970	420,586
販売費及び一般管理費	660,778	617,072
営業損失	146,807	196,485
営業外収益	14,714	7,147
営業外費用	22,674	73,757
経常損失	154,767	263,095
特別利益	1,852	4,313
特別損失	200,005	304,759
税引前中間純損失	352,920	563,542
法人税、住民税及び事業税	1,168	1,505
中間純損失	354,089	565,048

## 個別決算における特別損失 (単位:千円)

固定資産除去損	11,012
関係会社株式評価損	194,866
製品評価損	25,835
減損損失	73,045
特別損失計	304,759

本資料には、当社の計画と見通しを反映した将来予測に関する記述を含んでおります。これらは、本資料作成時において、入手可能な情報に基づいた予想値であり、潜在的なリスクや不確実性が存在しています。そのため、本資料に記載されている将来見通しが、実際の業績と大きく異なる場合があることを、ご承知おきいただきますよう、お願い申し上げます。

2008年2月26日

プレシジョン・システム・サイエンス株式会社

<http://www.pss.co.jp/>



Precision System Science Co., Ltd.